

糖尿病患者さんが受診されたら...



- ・糖尿病手帳の提示を求める(検査値の確認)
 - ・診療のつど全身状態を把握する
- この2点の確認が重要です。



これだけは押さえておきたい用語と検査値

HbA1c (ヘモグロビンエーワンシー)

正常値...4.3%~5.8% (特定健診で要精検になる値...5.2%以上)

糖尿病診断基準...HbA1c 6.5%以上

※抜歯、歯周外科は6.5%以下が望ましいとされています。

感染症を抑えることのできる目安...7% (糖尿病患者全体の70%)

血糖コントロールの出来ていない患者さんに歯科治療を行うことは危険です。特に、定期的な検査を受けていないが体の調子がよい、といわれる患者さんはよくお話をして内科の受診をしていただき、HbA1cの値を確認したのち治療を行ってください。

わが国で一般的に用いられている血糖コントロール基準

指標	HbA1c値 (%)	空腹時血糖値 (mg/dL)	食後2時間血糖値 (mg/dL)
優	5.8未満	80~110未満	80~140未満
良	5.8~6.5未満	110~130未満	140~180未満
可	不十分	6.5~7.0未満	130~160未満
	不良	7.0~8.0未満	
不可	8.0以上	160以上	220以上

シックデイ

糖尿病治療を行っている人が、他の病気になったため食事が十分に取れず、その結果血糖値が不安定になりやすい状態を「シックデイ」といいます。「シックデイ」では食欲不振、嘔吐、下痢、発熱、倦怠感などが起こります。普段血糖コントロールのよい人にも起こるので注意が必要です。歯科治療中、満足に咀嚼ができない場合や痛みがあるときも、「シックデイ」になりやすい状態です。インスリン治療を行っている患者さんには、かかりつけ医に相談するよう勧めてください。また、全身状態の問診は診療を行うたびに確認してください。



糖尿病性腎症

糖尿病発症から約20年経過後、人工透析が必要になる場合があります。人工透析をしている糖尿病患者さんは、歯周病の進行が糖尿病のみの場合よりさらに早く、徹底的なブラークコントロールと細かいメンテナンスが必要です。人工透析を行っているかどうかは必ず問診で確認しましょう。透析を行っている患者さんには抜歯処置を行う日を透析日と違う日にする、抗凝固薬を(低分子ヘパリンに)一時的に変更してもらうなどの注意が必要です。腎症の患者さんは腎臓の機能の低下があり、薬品の副作用に留意してください。

歯科診療の際の注意点

予約時

- 糖尿病手帳の提示を求める
- 診療のつど全身状態を把握する
- 食後から治療まで時間を空けない
- 感染予防のための抗生剤の前投薬を考慮する
(歯周病処置、抜歯などの観血的処置)

治療時

- 低血糖発作への準備

ブドウ糖10g投与が最も有効で、グルコーススティックを使用する。ない場合は右表のような清涼飲料水を与えるが、ブドウ糖含有量で10gになるように与える。なお砂糖(スクロース)は、α-グルコシダーゼ阻害薬を服用している患者さんには血糖上昇効果が低下する。

- 摂食困難になるような処置はシックデイを誘発するので十分に指導管理を行う

治療後

- 抗生剤の投薬など感染予防に努める

市販清涼飲料水中のブドウ糖含量

商品名	1ボトル中の含量(g)	1ボトルの容量(ml)
ファンタグレープ	20	350
ファンタオレンジ	18.9	350
ハイシーオレンジ	15.4	350
ハイシーアップル	14	350
コココーラ	13	350
はちみつレモン	8	350
午後の紅茶	0.09	340
ジョージア	0.09	250

(ブドウ糖以外の糖質(ショ糖、果糖)は省略)

糖尿病の患者さんはこんな疑問を持っています。

Q1 歯周病と糖尿病は何か関連がありますか？

A1 糖尿病の人は歯周病の罹患率が高く重症化しやすいのです。また、糖尿病の人が歯周病治療をすると血糖コントロールが改善する場合がありますといわれています。



Q2 糖尿病ではどうして喫煙がだめなのですか？

A2 全身的には血液の循環が悪くなって四肢の切断につながり、口腔内では喫煙によって密集した血管が収縮し(ニコチンの作用)、唾液が減少して細菌の繁殖しやすい環境を作り出しますので禁煙は重要です。糖尿病がある場合、喫煙すると歯周病治療の効果が著しく落ちます。



Q3 歯周病になったらどうしたらよいのでしょうか？

A3 歯周病は自覚症状がなく放置しがちです。進行するとうまく咀嚼できなくなるため血糖コントロールに影響します。また歯周病により炎症性サイトカインであるTNF- α の産生が増えてインシュリンの効きが悪くなり、その結果血糖コントロールが悪くなります。歯科医院で治療し、再び悪化しないようきちんと管理してもらいましょう。



Q4 歯周病がよくなれば糖尿病もよくなりますか？

A4 歯周病治療を行うことで、血糖コントロールが改善することがわかってきました。欧米の研究では、HbA1cが0.5~1%下がるというデータが出ています。

Q5 歯周病と糖尿病で似ている点がありますか？

A5 共に慢性疾患で、初期症状や自覚症状に乏しく、発見が遅れがちになります。罹患する方の年齢も、共に中年期以降が多く、生活習慣病としての側面を両者とも持っています。また治療するためには自己管理が重要だということも非常に似ています。



2型糖尿病の自然歴



欧米人と異なり、日本人は遺伝的に糖尿病にかかりやすいのです。

糖尿病の患者さんは、病気に悲観して精神的に不安定な方もおられます。歯周病治療の一環として、セルフケアの指導がありますが、たとえ不十分なセルフケアだったとしても、協力者的な立場をとることがモチベーションの改善につながります。

